

東北教区被災者支援センター エマオの活動に参加して

中川 葉子 (鹿島教会)

昨年のゴールデンウィークに、仙台の「東北教区被災者支援センター エマオ」のボランティアに夫と参加しました。もう一度参加したいと思っていたところ、長男（小 4）と二男（小 1）が春休みで山形のキャンプに 1 週間参加することになったので、三男（3 歳）を群馬の実家に預かってもらい、1 人で 4 日間（前後移動日含め 6 日間）参加しました。

仙台駅前の中心街は昨年も既に普通の街に戻っていて驚きましたが、今回も相変わらず大都市に映りました。

ボランティア活動地域である、仙台市若林区笹屋敷地区で、前回は、床板をはがしての泥出しや、壁の泥を拭いたり、食器を洗ったり、庭や畑に積もった泥をはぎ取るといった作業を行いました。今回訪れると、昨年見たがれきはすっかり無くなり、一見元通りになったかのように見えました。

今回の私の 4 日間のワークは、畑の中に入ってしまった石を取り除くことでした。畑の中の大きながれき、石、岩、ガラスは、過去の何度かのワークで取り除かれていました。しかし、小さな石も取り除かないと、トラクターの刃を傷めてしまうということで、小さな石を手作業で取り除いていくというのが今回の仕事でした。5~6 人が 1 組になって行いました。

初日は、1 アール程度の畑を、5 人で 1 日かかりました。2 日目からの土地は、土が固く、3 日間でも 10 畳程度しか進みませんでした。広大な畑や田んぼを、農業ができる状態に戻すには、まだまだ人手が必要だということを強く感じました。

山梨英和高校や基督教独立学園（山形）の高校生と一緒にワークをしました。英和高校では、1 人の高校生が先生に「行きたい」と声をかけ、部活のみんなと夜行バスで来たそうです。また独立学園の高校生は「学校の修学旅行で、被災地でボランティアをしたい」と、下見を兼ねて来ていました。休憩させていただいたお宅の納屋の壁に「ここに母眠る。悔しい」とマジックで書かれていたのを見て、1 人の女子高生が号泣していたのが印象的でした。「普段は友達と軽い話しかしないけど、ここでは真剣な話ができよかった」と語る高校生もいました。

夕食は東京から夕食作りボランティアで来て下さっていた教会の女性達の手作りの温かい食事でした。みんなで囲む夕食は、とても楽しく、新しい友達の輪が広がる時間でした。

エマオの活動が他の団体と異なる点は、①効率を求めず、被災者の方々のペースに合わせたスローワークをしている事、②被災者の方々の要望にどこまでも寄り添っていく活動をしていくこと、③1 日のワークの後に、ボランティア同士で気持ちを語り合い分かち合える時間があることです。

仙台に滞在した 6 日間に、たくさんの牧師先生や教会の人達との懐かしい再会がありました。私自身が子どもの時から教会とつながり、多くの方々との交わりの中で生かされてきたことを改めて感じました。

東北の物を買うことで支援になればと思い、今回も牡蠣の佃煮や大豆を段ボール箱に詰めて送りました。教会でこれを販売することで、現地に行けない教会の方々にも被災地に想いを寄せていただくことができたと思います。

ワークの中には、軽作業も多くあります。今回も、中高年の方も多く参加されていました。時間の許す方は、体力面の心配はあまりせず、ぜひ参加してみてください。

時間的・物理的制約もあり、頻繁に被災地に足を運ぶことはできませんが、どんな形でも良いので、これからも東北とつながり続けていきたいと思っています。

第14回「東日本大震災」被災支援委員会報告

小池 正造（東新潟教会 被災支援委員）

4月13日（金）に大宮教会を会場に被災支援委員会が開催されました。

秋山議長より、3月30日に仙台東北教区センターエマオでもたれました被災三教区連絡会についての報告がなされました。奥羽教区より3名、東北教区より4名、関東教区より9名の出席があり、各教区の取り組みや課題が、忌憚なく話し合われ、情報と課題を共有いたしました。奥羽教区は、教区内教会の再建を第一課題として、自助努力重ねて行く姿勢であること、東北教区は、仙台エマオ、石巻エマオを中心とした地域内での再建活動への協力（ボランティア）、12教会並びに、関係施設の再建、放射能汚染に対する対策と多岐にわたる活動領域を持っていること、とそれぞれの教区の抱えている課題の違いを認識したことが報告されました。連絡会後には、津波で壊滅的被害を受けた荒浜七郷地区を訪問し、現地でエマオからのボランティア受け入れに積極的に協力しておられる菅原さんと面会することが適ったことが報告されました。また、アジア学院が、支援要請をしていた3,500万円の内、2,000万円が予算化され、支援されることが決定したことが報告されました。

被災三教会連絡会を実施して、各教区の取り組みの豊かさを知ることができた一方で、再建に向けてのスタンスの違いも明確になり、関東教区は、今後、教団に対して、既に、直接的に各教区に献げられている献金も勘案しながら公平な教会再建に向けての支援がなされていくよう要望していくことを確認いたしました。

桐生東部教会より申請のあった牧師館支援について、申請を承認しました。

各教会、関係施設より提出された被災状況の報告と支援申請をもとに、協議をし、桐生東部教会、益子教会、水戸自由が丘教会より提出されている教団再建支援に申請することを承認いたしました。また、被災信徒宅へのお見舞いとして、提出していただいた罹災証明書を判断基準として、全壊宅15万円、大規模半壊宅10万円、半壊宅5万円、一部半壊宅3万円をお見舞い金として、少しでも速やかに家の再建がなされることを祈りつつ、お渡しすることを委員会として決めました。正式には、4月17日に行われる常置委員会にて正式に決定をし、被災信徒宅へお渡しすることとなります。なお、まだ信徒宅の被災状況を報告されていない方は、市町村が発行する罹災証明書を取得の上、飯塚統括主任までお問い合わせください。

第62回関東教区総会に次の点を骨子として議案を提案することになりました。①教団「東日本大震災」被災支援募金の達成を目指して。②東北・奥羽教区への支援の継続（ボランティアによる支援）を継続してゆく。③3.11「東日本大震災」被災地・被災教会を覚える主日を覚えていく。④放射能汚染に関する事柄への取り組みほかについてです。

京畿中部老会の方々16名が、5月7日から10日の日程で、茨城地区、栃木地区、磐城教会をお訪ねくださいます。

○会計報告

2012.3.31 現在（単位円）

収入の部		支出の部	
献金（教区内）	11,063,254	支援活動費	2,844,550
献金（教区外）	11,784,548	教会支援費	4,600,956
教団救援対策金	10,000,000	支援委員会費	1,770,442
		貸出金	8,695,000
		支出計	17,910,948
		残高	14,936,854
合計	32,847,802	合計	32,847,802

